

吉祥圖案解題

陳賓 篆署檢



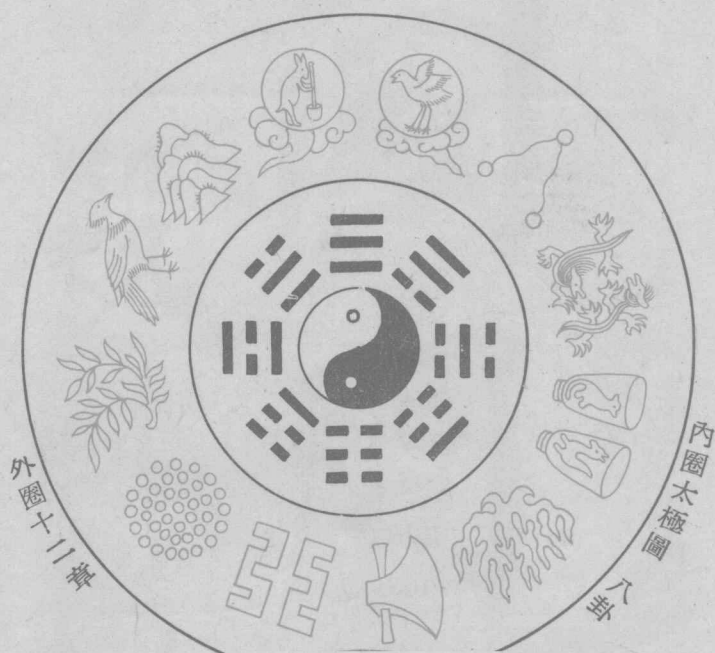
香樹齋集



吉 祥 圖 案 解 題

支那風俗の一研究

上



野崎誠近著

入國問俗

段祺瑞



雅興徵淹

李青



序

古者外朝三槐取義懷柔社木樹栗
使民戰栗語文寓意息息相通後世
習俗因依祝祥稱慶以類象形蓋昉
于此矣學者不察鄙其俗近如世所四
三多五福之文寒山拾得之事蓋襲々
乎縉紳所不道而不知其有近乎古也

吉祥之飾莫不圖說并舉音義互通討
究經年不閒寒燠又就正於日本學士大夫
加以修訂為圖三百九十有奇為目一百八十有
五名曰吉祥圖系解題以考古之精神極
通俗之能事其意至善也古人云一事不知
儒者之恥是書之成得曰手一編而遇物能名
指圖通義是說吾人日用不知之陋如野崎

君者真所謂他山之石可以攻錯矣邦人諸友
僅更進而求之俾吾華數千年來之風俗
昭煥其宗教學術一名一物紀其系統勒為
專書其庶幾無禮失求野之歎乎竊願與
讀者共勉之

中華民國十有六年八月合肥王揖唐



丁卯生夏歸自梟中過野崎誠
近君齋中見近著吉祥圖案解
題一巨帙筆樣脩古今而孝證
極精審余之獲交於野崎君已
二十餘年夙知其畱意於吾華
習尙具有心得茲有吾人日用
不知而君能道其源委者初不

料其研究圖案衷然成書也兩
載睽離爲出刮目余少賤多能
於圖案出事頗能心通其意願
于叅證往籍探討源流不惟無
此學力且亦無此暇時野崎君
僑旅吾華勞心貨殖乃博洽一
至於此尤不禁舌撝不下至於

通中日之郵淵源所自闢同
文之口實納國俗於從同識鑒
深遠固不待余生歡喜贊歎也

中華民國十有六年八月

天津王賢賓竹林氏

告年七十有二





文字因孳乳而生、象形諧聲同爲六書之一。易以八卦定吉凶、近取諸身、遠取諸物、而歸於自天祐之吉无不利。自繪事列爲藝術、遂與文字、有形上形下之分。殊不知名理之文與彰施之繪、同爲日用所需。而象物之旨、大之足以知神姦備百物、細之足以識鳥獸草木之名。其輔文字前民用、較之書契且不啻倍蓰。後儒弇陋空譚述作、百工之事乃不見稱於士類。輒近學者漸曉然於文與物相因、形與聲互用、並推廣假借轉注之理。凡意匠之設計、畫工之取義、皆欲會其意而窮其源。於是一名一物悉關至理、固非雕蟲小技壯夫不爲、所可同日語也。

野崎誠近君僑吾國二十年、留心於吉祥圖案之事、問禁問諱、合國俗方言、書契圖繪、一以貫之。頗能左右逢源、言之有物、比年鐸時來津上、每假館其家。清晝深宵、促膝繙檢。偶然離索、郵筒商略。歲月旣淹、竟成巨製。復就正於岡井愼吾先生、斧落微引、屬草乃定。更屬其淑配品子夫人、排比次第成索引一通。

且於付印時親爲校正。頃者殺青甫竟、樂觀厥成。乃識其緣起、以諗讀者。

二

共和十有七年歲在戊辰閏月

合肥

闕

鐸



吉祥圖案解題序

四千年の歴史と四億の人口を包有する支那民族の特性を一言以て之を蔽へば福祿壽卽ち是れなり。福祿壽を獲ることを以て人生終極の目的とし、營々役々勤勞に服して倦まざるものは之れが爲なり。支那民族共通の理想は茲に在るが爲に、衣食住の日常生活より冠婚喪祭の儀式に至るまで、吉祥語吉祥圖を以て之れを表徴することに於て始終徹底せざることなし。されば支那民族と接觸交際する國民は此の消息に通ぜざれば、眞に之と浹洽圓融の交情を得ること難かるべし。而して此の道理は識者の直ちに了得する所なるべけれど、さて如何にすれば支那民族の理想を如實に識得すべきかといへば何人も茫乎として答ふること能はざるべし。野崎誠近君支那に在ること多年、汎く支那人に交り其の特性を理解すること尤も深く、支那民族の理想を表徴する吉祥圖を博集詳解して殆ど餘蘊なし、題して吉祥圖案解題といふ。余客冬支那に遊び、親しく君に交

はり、又此書を閲して感歎措く能はず。君に謂て曰く、是ある哉、支那民族と尤も廣く又尤も深く交際する我國民の爲に秘鑰を授くるものと謂ふべしと。余深く君が懇篤親切の志に感ずる所あり、今此書を公刊するに方り、所見を述べて江湖に薦むと云ふ。

昭和三年四月

正木直彦



自序

支那では商人の書物弄りは損をするものと誠められて居ります。それは書物の書と輸贏の輸とが同音同聲(Shu)なので、勝負に敗けるとかつぐからなのであります。

私の父は讀書人であつたので、私の學生時代、毎年暑中休暇になりますと、書物蟲干の手傳をさせられました。その時解らぬながらにあれやこれやと拾ひ讀をしたことから知らず知らずに書物に親みを持つ様になり、殊に漢籍には一層の愛着を感じる様になりました。

今商人の私が書物を著したりしては、書物弄り以上に敗を取らねばなるまい。が私としては日中勞れた頭は畢竟自分の趣味とする事で醫せられねばなりませんから、道樂の意味で心掛けた結果が、つひ此んなものと纏つた迄のことであります。

先日或る處で「群盲評古」と題して、數人の盲者が思ひ思ひの骨董を或は撫で或は摩り或は嗅ぎなどして品評を試みて居る畫を見ました。私の此の企ては此の畫以上見つともないものであるかも知れませんが、吉祥圖を骨董品として世に紹介するのでなく、之を

以て支那を理會する一助たらしめたい私の微意を少しにでも酌み取つて下さる方が有らば、
私は何物かを贏ち得た喜悅に浸る者であります。

二

昭和二年十一月九日

天津にて

野崎誠近識す